

◆当日の参加者（順序不同、敬称略）

（新町）毛利秀士 北村直登 橋本和彦 渡邊稔晃 仁田信二 宮本茂弘 米村孝一 宮本茂史
（古町）伊藤博文 佐伯洋興 柴田浩志 楠本裕之 松田清見 平野俊晴 田中恭徳 早川祐三
上村元三 川上靖 益雪シズエ 長野聖二 池田夫妻

景観アドバイザー 宇野史郎（熊本学園大学教授） 内丸恵一（崇城大学講師）
西島真理子（建築士）

高木富士川計画事務所：高木淳二 宮野桂輔 宮野岳明
熊本市：永山國博 福永卓巳 宮本肇 中嶋浩 林田純一 岡田左千枝

◆第一回協議会の感想（終了後のアンケートより）

- ・良い試みだと思います。出されたアイディアが一つでも多く実現してほしい。
- ・いろいろな意見があるが、実現できるものに絞って話をした方がよいのではないか。
- ・地区の実情を踏まえず、「あこがれ」だけで話をしても落差が大きいと思う。
- ・こんな話し合いの場が欲しかったが、3回で足りるのか？
- ・個人ですべきことと公共ですべきことと整理してメリハリのある議論を。
- ・絵に描いた餅に終わらないことを期待する。
- ・この取組はどのくらい長く続けるのか？
- ・加わりたい人がある場合は誘ってよいのか？

◆次回のご案内

日時：8月26日（金曜日）

午後7時から2時間程度

場所：桜の馬場 城彩苑 2階会議室

次回のテーマは、

「**建造物等のデザイン基準**」の検討です。

家などの建物の外観、塀などの附属物をどのような基準にしたらよいかなどについて話し合います。全国的にも同様の取組が行われていますので、それらを参考にしながら進めていく予定です。

新たに参加を希望される方がいらっしゃいましたら、下記のお問合わせ先までご連絡ください。

◆新町・古町の町屋をめぐる様々な動き（2011年）

新町・古町の町屋では様々な活動が行われています。面白そうな取組みが企画されていますので、お近くにお越しの際には、是非お立ち寄りください。

- 1月29～30日 ❖町屋体験の日Ⅱ：賃貸や売買を目的とした町屋巡りの実施
- 3月11～13日 ❖町屋アートホーム in 新町：新町の町屋とアーティストとのコラボイベント
- 4月30日 ❖東北支援ライブ from 古町 熊本（早川倉庫）：旧酒蔵でのチャリティライブ
- 5月 ❖サイクルショップ+C開店：唐人町通り セブンイレブン向い
- 6月18日 ❖かね屋カフェ：一夜限りのラウンジカフェ 蓄音機と往時の映画上映が好評
- 6月26日 ❖レストランかわばた開店：唐人町通り 「塩胡椒」隣
- 7月2～3日 ❖小沢町「弊町屋／Hey Machiya」：お掃除と壁塗り体験（町屋研究会）
- 7月9～10日 ❖古町さんぽ CAFÉ(源ゾーン)：書籍「熊本カフェ散歩」とのコラボレーション企画
- 7月15日 ❖BAR 光助オープン(新町・大住工芸)：肥後象嵌店にミニバーを併設



▲町屋アートホーム in 新町



▲東北支援ライブ from 古町(早川倉庫)



▲弊町屋お掃除と壁塗り(小沢町)

お問合わせ先

熊本市 開発景観課 景観整備係 担当 中嶋・林田
電話 096-328-2507 ファックス 096-351-2182
メール kaihatsukeikan@city.kumamoto.lg.jp

第一回 城下町の風情を感じられる町並みづくり協議会が開催されました。

町並み便り

第1号

発行：熊本市開発景観課
平成23年7月

◆当日の様子

「第一回城下町の風情を感じられる町並みづくり協議会」が7月8日（金曜日）午後7時から桜の馬場 城彩苑 会議室にて開催されました。

当日は、新町・古町から20名を超える出席者がありました。また、熊本学園大学の宇野先生、崇城大学の内丸先生、建築士の西島さんを景観アドバイザーに迎え、同じテーブルに着いて参加していただきました。

町の魅力やその理由、町並みづくりに必要なルールについて、時間が足りない程のたくさんの意見が出されました。また、それぞれの地区での話し合いの成果を発表し、皆さんのいろんな意見を聞くことができました。



◆城下町の風情を感じられる町並みづくり協議会とは・・・

熊本市では、熊本城の城下町の町割が残る新町・古町地区において、市と地域が合意のもとに協働で町並みルールづくりや町屋の保存活用を行うことで、城下町の風情を感じられる町並みづくりに取り組んでいきたいと考えています。

そこで、新町・古町地区の皆様と3回にわたり協議会（ワークショップ形式^{※2}）を開催し、町並みづくりの基本方針や建造物等のデザイン基準などを定めた『町並みガイドライン^{※1}案』について検討していただきたいと考えています。

第一回協議会ワークショップ
7/8（金）実施済
町並みづくりの
基本方針の検討



第二回協議会ワークショップ
8/26（金）予定
建造物等の
デザイン基準の検討



第三回協議会ワークショップ
10/7（金）予定
モデル街区候補地
の推薦

この協議会での作業結果を受けて熊本市が本年度取り組む内容は、次のとおりです。

❖町並みガイドラインの策定

❖城下町づくりモデル街区^{※3}（以下、「モデル街区」という。）候補地の推薦とモデル街区の関係者による町並み協定^{※4}案についての意見交換会の実施と協定締結に向けた取組み

❖町屋認定制度及び保存・修景助成制度の検討

❖モデル街区の修景助成制度の検討

※1 町並みガイドラインとは、建物等の外観デザインのルールや、「町並み協定」導入の取組みについて定め、みなさんの自主的な町並みづくりの活動に活用していただくものです。

※2 ワークショップ形式とは、地域の皆さんが自ら参加・体験して、参加者の共同作業で計画などを立てたり、進めていくことです。

※3 城下町づくりモデル街区とは、町並み協定が結ばれた街区になります。

※4 町並み協定とは、町内単位や各通り単位での建物等の外観デザインのルールなどを定めたものです。協定を結ばれた土地や建物の所有者は、協定内容の建物の外観デザイン等のルールに沿って、新築、改修等を行っていただくことになります。

◆第1回のワークショップから～新町・古町の町並みづくりのはじめかた～

①町の魅力は、どんなところか？

地域住民が考える「外から来たお客さんに見せたい」、「案内したい」、「大事にしたい」新町・古町らしいものとは、どんなものか意見を出してもらいました。

❖ 新町らしい大切なもの

【古い建物、場所など】

吉田松花堂、勢屯り、お旅所の能舞台、清爽園、長崎次郎書店、高麗門など4つの門の跡、横穴古墳群、正妙寺通りなど

【昔からのお店】

新鳥町のおもちゃ屋さん、辛し蓮根の店、味噌屋、肥後象嵌工芸店、料亭、富重写真所 など

【町の歴史の案内】

約1000年前の藤崎台の千年クスノキ、江戸時代に造られた町割り、城内の町、400年前から続く地蔵祭り、西南戦争の痕跡、明治と昭和が混在して残る風景 など

【水にまつわる場所など】

古城堀端のハス、どんぶり池の湧水、行在所の井戸、坪井川の水運 など

❖ 古町らしい大切なもの

【古い建物、場所など】

唐人町通りの家々、森本表具店、古荘本店横の路地、清永本店横の路地、慶徳のせどわ、小沢町の家々、鈴木邸、昔ながらの町名が残る町割り

【昔からのお店】

川上酒店、早川倉庫、慶徳饅頭、出田洋食店

【坪井川から見える風景など】

明八橋、明十橋の美しさ、水面から見上げる町の風情、北岡自然公園の緑、一駄橋

【寺のある風景など】

一町一寺ならではの風景、稚児行列や花まつり、鐘の音、読経の声、茶会に集まる着物姿の人々

【人々の暮らし】

スローな時間が流れる町の雰囲気

②どこに着目するとよいか？

訪れたいような新町・古町にしていくなために、重点的に景観づくりを進めたい場所について、参加者の意見を整理すると3つの着眼点が見えてきました。

地元への愛着、古い建物に囲まれた暮らしについて語られましたが、一方で、急速に変わってしまった町並みへのあきらめも語られました。

そんな中で、今ある町並みの良さを引き出し、多くの人に見てもらうための方法を話し合いました。

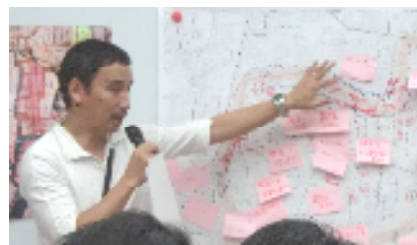
それは、愛着のある町屋や町並みの価値や地区の誇りを、新町・古町の内外の人々が共有し、世代を超えて受け継いでいくための知恵でもありました。

ここでは、皆さんの意見を整理すると3つの着眼点が見えてきました。

◆ 城下町の歴史を感じさせる新町・古町の町屋を大切にしたい

◆ 住民の心づかいで、城下町の風情を感じられる町並みを育てたい

◆ 古いものと新しいものが調和する町並みを創っていききたい



③どんなところが気になるか？

左の①, ②の話し合いを踏まえて、新町・古町の大切な景観を良くしていくために、どんなところが気になるか意見を出してもらいました。

※ この他にもたくさんの意見がありました。

◆ 新町で気になること

❖ 建物・看板などで気になること

- ※ 高さに基準を設ける。
- ※ マンションの建て方を考慮する。
- ※ 普通の近代的な住宅はいらない。
- ※ 漆喰壁の上にトタンなどを張った家が多い。
- ※ 町屋が看板建築になっている。
- ※ 外壁の色の基準を設ける。
- ※ お店を増やしたほうがいい。
- ※ マンションが多い。
- ※ 町屋に合う昔風の看板の統一が必要

❖ 公共的な空間について気になること

- ※ 生活道路について交通制限ができないか？
- ※ 電柱や電線を地中化する。
- ※ 蔚山町を案内したいが、写真を撮る場所がない。

❖ その他

- ※ 城下町らしい町屋などに入れる所が少ない。
- ※ 素人でも土壁、板、漆喰を塗ることは可能。

◆ 古町で気になること

❖ 建物・看板などで気になること

- ※ 背の高い建物は、好ましくない。
- ※ マンションの形状を現代的な長屋にならないか？
- ※ 新建材でのリフォームはやめる。
- ※ お寺への通路で見られる町屋の妻側外壁は重要
- ※ 店舗のシャッターの修景（マグネット式で昔の写真を張る）
- ※ 五福交流センターの建物の外壁が真黒で威圧感がある。
- ※ 屋根の仕上げの統一感が必要。
- ※ マンションの1階部分は、町並みとの統一感が必要。
- ※ 室外機を格子で見えなくする。
- ※ 坪井川沿いの建物の川側外壁の修景ができないか？
- ※ マンションはこれ以上いらない、増やさない。
- ※ 可能な限り、植栽をする。
- ※ コインパーキングの看板の色を落ち着いた色にする。

❖ 公共的な空間について気になること

- ※ 電線の地中化をする。道路の舗装面を石畳にする。
- ※ 坪井川沿いの修景ができないか？
- ※ 電停を和風に改良する。電停を道路の片側に寄せる。
- ※ JRの高架の柱脚が目障り。
- ※ 電車通りや川沿いを緑化する。

❖ その他

- ※ 生活のにおいて、音を大切にする。
- ※ 小学生に古い町に住むための英才教育をする。

より詳細に！

次回の
検討へ

次回は、新町・古町の皆さんが取組むことができそうな町並みづくりのルールについて検討します。
城下町らしい歴史を感じさせ、そこに暮らす人々の心づかいで城下町の風情を感じられる町並みの具体的な姿について考えます。